

公告 昭 28.7.16 出願 昭 26.11.21 (前特許出願日援用)
実願 昭 27-21011出願人 考案者 倉 田 高 新潟縣佐渡郡赤泊村大字赤泊189
(全2頁)

槽 の 推 進 補 助 装 置

図 面 の 略 解

第1図は本案装置を設けた槽の平面図、第2図は本案の側面図、第3図は本案の平面図である。

実用新案の性質、作用及効果の要領

本案は槽の水掻翼部の先端表面に鱗の如く、水掻翼板を更に附加的に設け、槽の操作と共に水掻翼板は水を掻き、舟の推進を容易ならしめるようにした槽の推進補助装置であつて、図中1は槽の水掻翼部、2は槽の水掻翼部を帯狀に巻き裏面を槽に固着せしめたる台板、3は台板に取付けたる山形板、4は山形板の中央垂直辺に設けたる蝶番、5は蝶番を介して取付けたる水掻翼板、6は水掻翼板の運動を制御する為両面同位置に取付けたる制止突起板、7は槽腕を示す。

山形板3は水掻翼板5を蝶番4にて完全に保持出来、また制止突起板6の先端を完全に支へ得る程度にて、なるべく小形にする、即ち山形板3は槽の水掻翼部1の表面に固定した突起部になり、槽の水掻作用上に於て僅かながら不用の抵抗を生ずる為である、槽漕運動は、槽腕7を前方に押し出し、それを逆に引き返す、この動作を繰返し行ふものであるから、本案の装置は、槽腕7を前方

に押し出す場合、水掻翼板5は水に抵抗し、制止突起板6及び山形板3によつて支へられ、第1図に示す如くになり水を掻く、槽腕7を逆に引き返す場合は、其の反対の状態になり水を掻く、即ち槽の水掻翼部1に水掻翼板5は併行し間断なく共に水掻作用をなすものである。

本案は魚が尾鰭の運動にて前進する作用を槽に応用せるものにして、即ち水掻翼板5は魚の尾鰭に該当し、其の水掻きは槽本来の推進力と併行し極めて有効な増加推進力を生ぜしむるものである。

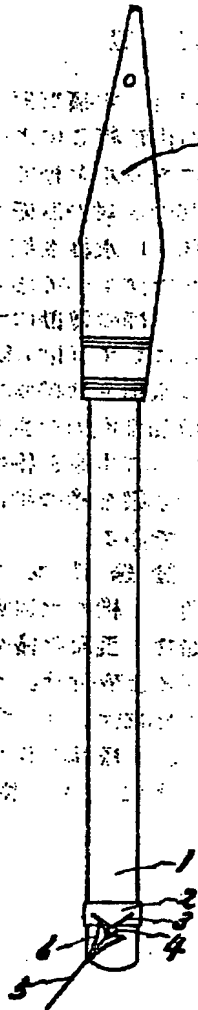
斯の如くにして本案を槽に装置すれば多大の効果を得られ、本案を槽の推進補助装置として極めて有用のものである。

登 録 請 求 の 範 囲

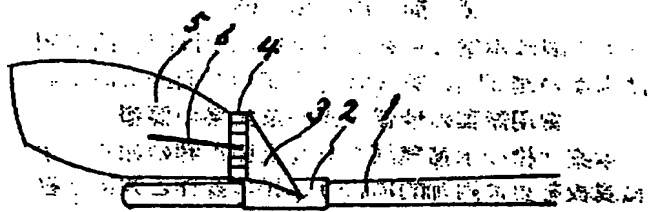
図に示す通り、槽の水掻翼部1の先端に、台板2を帯狀に巻き、裏面を槽に固着せしめ、其の台板2に山形板3を取付け、この山形板3の中央垂直辺に蝶番4を設け、其の蝶番4を介して水掻翼板5を取付け、水掻翼板5の両面同位置に制止突起板6を取付けて成る、槽の推進補助装置の構造。

(1158)

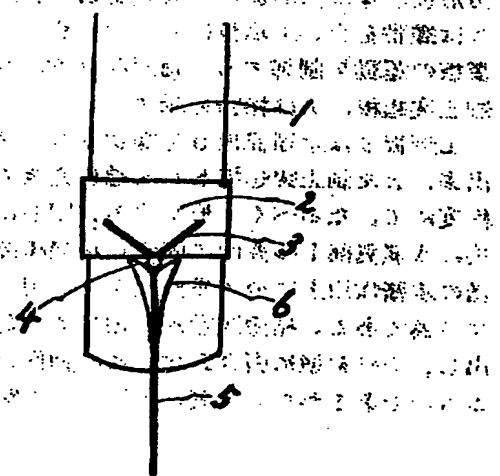
第1圖



第2圖



第3圖



BEST AVAILABLE COPY